

# 関東ふれあいの道(茨城)⑪筑波山巡りから旧参道へのみち

2021年12月1日池内淑皓

2021年6月1日(火)晴れ。コースは筑波山の頂上御幸ヶ原を出発し、遙か昔から歩かれてきた「つくば道」(日本の道100選に選ばれている)を歩き、門前町として栄えた北条の町に出る。

関東ふれあいの道は北条集落を通らず、直接古代官衙跡遺跡に向かうのであるが、江戸時代建立されたつくば道の大きな石柱道標を見学してから、平沢集落にある古代筑波郡官衙跡の遺跡を見学して、バスで土浦に戻った。



「関東ふれあいの道⑪筑波山頂めぐりから旧参道へのみち」案内板(自然歩道連絡協議会)



筑波山から「つくば道」概念図 (つくば観光パンフレット)



御幸ヶ原でお弁当を食べて、12時出発



御幸ヶ原コースは一般向けハイキングコースで、A-8の表示に従って歩く



いきなり急な木道で手摺もないから、膝の弱い私は、蟹(かに)歩きで下る



800mの御幸ヶ原から 300mの筑波山神社まで 500mを一気に下るのだ



原生林の中を縫うように下る



筑波山一帯は、神領として守られてきたから、手つかずの自然が残されている



万葉時代から歌枕の地に到着、男女川(みなのがわ)源流を通る



私も陽成院になったつもりで、一枚パチリ



"筑波嶺の 嶺より落つる男女川 恋ぞ積もりて 淵となりぬる"

陽成院(貞観 18 年(876)9 歳で父清和天皇から譲位し、17 歳で上皇となる。天曆 3 年(949)73 歳で没した)



「筑波山神社」崇神天皇の御代、物部氏の一族筑波命が筑波国造に命じられ、社を勧請した。  
江戸時代、幕府は筑波山神社が、江戸城の鬼門に当たるため、手厚く庇護したと言う



ご神体は筑波山頂で、頂上の男体山はイザナギミコ、女体山はイザナミコを祀り、古代山岳信仰の形式が維持されている。ここは山のご神体を拝む拝殿となっている(奈良大神神社と同じ)



「隋神門」寛永 10 年(1633)徳川家光寄進と伝える



「大杉」 樹齢 800 年、樹高 32m。市天然記念物



「つくば道」 神社の門前から遥か麓の北条に下る道を、特につくば道と言う



つくば道は、三代將軍家光が參詣道として開設した。本来は土浦まで 20kmある(日本の道 100 選)



昭和 14 年建てられた筑波郵便局旧庁舎を、平成 20 年ここに移築して展示している



昔は急な階段であったが、車が通れるように斜面に変えた。



所どころ昔風な遺構が散見出来、風情ある道として維持されている



「六丁目の鳥居」一の鳥居とも言われる。宝暦9年(1759)造立の石鳥居。  
昔はここから筑波山神社まで石段であった



麓に下ると傾斜も緩くなり、臼井の集落を通り抜ける



振り返ると頂上の雲が取れて、筑波山が良く見える(左男体山)



「神郡集落」(かngoおり)筑波山の神々が集まったと言われる、古い集落がつくば道の伝統を守っている



路地の至る所に案内があるので迷うことは無い、石柱も道標だが文字が読めない



北条の集落に出ると、寛政 10 年(1798)建立のつくば道石柱の道標が立つ



この先 20 分程の平沢集落に、古代筑波郡の官衙遺跡があるので見に行く



奈良・平安時代常陸国筑波郡の郡役所跡である。1975 年発掘し 1980 年国指定史跡になった。  
大型の高床式倉庫が多数並び、大きな環濠で囲んでいたと云う。



右校倉造り、中央双倉の倉庫群、税として納められた稲、麻布等をここに収納し、都まで運んだ。  
近くには新治、真壁、河内、信太の官衙があったと云う。



土浦行きバスは、平沢官衙入口バス停から、休日は一時間に2本出ている



今日のゴールは JR 常磐線の土浦駅 17 時 10 分発に乗れた

[参考タイム] 筑波山御幸ヶ原(12:05)→筑波山神社(13:45-13:55)→北条(15:00-15:15)→  
平沢官衙遺跡(15:40-16:21)→土浦駅(17:00-17:10)

この項完

「関東ふれあいの道(茨城)⑫果樹園のみち」に続く